

別表（第5条関係）

工事		種類	効果	適用
擁壁工		石積・ブロック積擁壁工	斜面下部の小規模な崩壊を抑制する。	のり勾配が1:1.0より急な（一般的には1:0.3～1:0.5）土砂斜面で背面の地山がしまっているなど土圧が小さい場合。
		もたれコンクリート擁壁工	崩壊を直接抑止するほか、侵食風化に対すもるのり面保護効果もある。	礫質土以下の十分な固結度をもたない地山にも適用できる。設置位置が狭隘でも場所をとらず、地形の変化にも適応性がある。
		重力式コンクリート擁壁工	崩壊を直接抑止するほか、押え盛土の安定、のり面保護の基礎ともなる。	斜面下部（脚部）の安定を図る目的で用いられ、崩壊に対する抑止効果を用いられる。
		コンクリート枠擁壁工	湧水が多く、地盤が比較的軟弱な斜面の小崩落を防止し、安定を計る。	透水性が良好で屈撓性があるの、湧水量が多く、地盤が比較的軟弱な場合や地すべり性崩壊に適している。
構造物によるのり面保護工	張工	石張・ブロック張工・コンクリート版張工	のり面の風化、侵食及び軽微な剥離・崩壊等を防止する。	勾配が1:1.0より緩い斜面で植生工が適さない場合や、粘着力のない土砂、土丹及び崩れやすい粘土の斜面には石張・ブロック張工が用いられる。コンクリート張工は勾配が1:1.0より急で、配節の発達した岩盤斜面やよくしまった土砂面での吹付工やプレキャストのり枠工では不安と思われる斜面に用いられる。
		コンクリート張工		
	のり枠工	プレキャスト枠工	のり面に現場打コンクリート枠工、プレキャスト枠工を組み、内部を植生、コンクリート張等で被覆し、のり面の風化侵食を防止する。プレキャスト枠工の期待する工法も開発されている。	勾配が1:1.0より緩い場合はプレキャスト、急な場合は現場打ちコンクリート枠工を使用する。原則として直高5m以下とは縦方向10mごとに隔壁を設置する。ただし小段が認められない場合は現場打コンクリート枠工を使用する。
		現場打コンクリート枠工	現場打コンクリート枠工も抑止工的役割がある。なお、現場打コンクリート枠工には、吹付枠工も含まれる。	